

# 新型コロナウイルス感染拡大が及ぼす影響に関する アンケート調査報告書

令和5年3月

ぐんま男女共同参画センター

## 1 調査目的

現在、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、県民生活や社会経済活動に大きな影響が出ています。このような中で、とりわけ、女性は非正規就業者が多く、雇い止めなどの雇用不安や、育児・家事等の集中によるストレス、心身の不調、DV（ドメスティックバイオレンス）などが懸念されています。

そこで、群馬県の男女共同参画推進の拠点である「ぐんま男女共同参画センター」では、このコロナ禍が女性の就業や家庭生活、心身の状況にどのような影響を及ぼしているのか等についてアンケート調査を実施して、その実態やニーズを把握し、今後の施策展開に活用するため、本調査を実施しました。

## 2 調査対象・回答数

県内に在住または通勤・通学している方

回答数: 513件

## 3 調査方法

群馬県庁電子申請システムを利用したWEBアンケート

（群馬県のホームページに掲載するとともに、「ぐんま女性活躍大応援団登録団体」や「群馬県いきいきGカンパニー認証事業所」へ拡散を依頼）

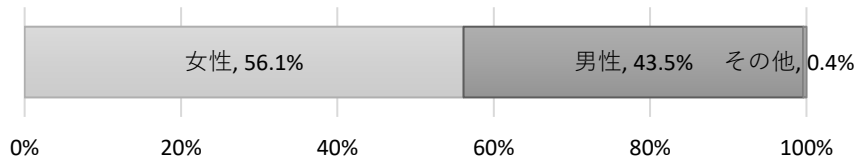
## 4 調査期間

- ・ 令和4年6月10日（金）～7月15日（金）

## アンケート結果のまとめ

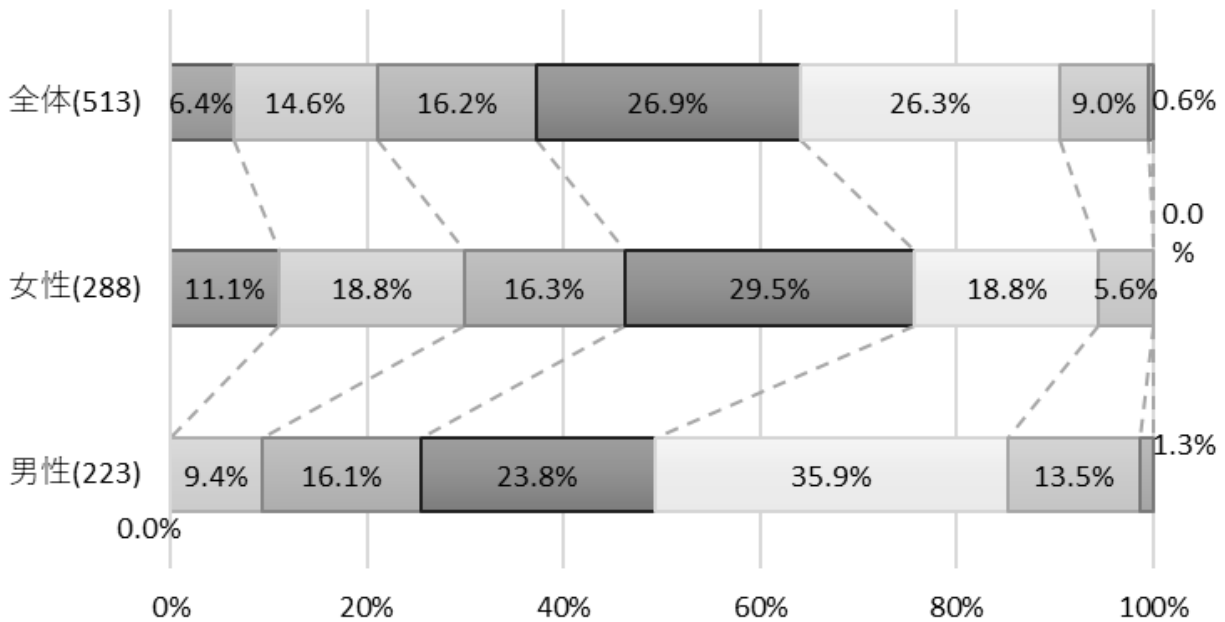
### (1) 回答者の属性について

#### 問1-1：性別



年齢	回答人数 (人)
全 体	513
女 性	288
男 性	223
その他	2

#### 問1-2：年齢

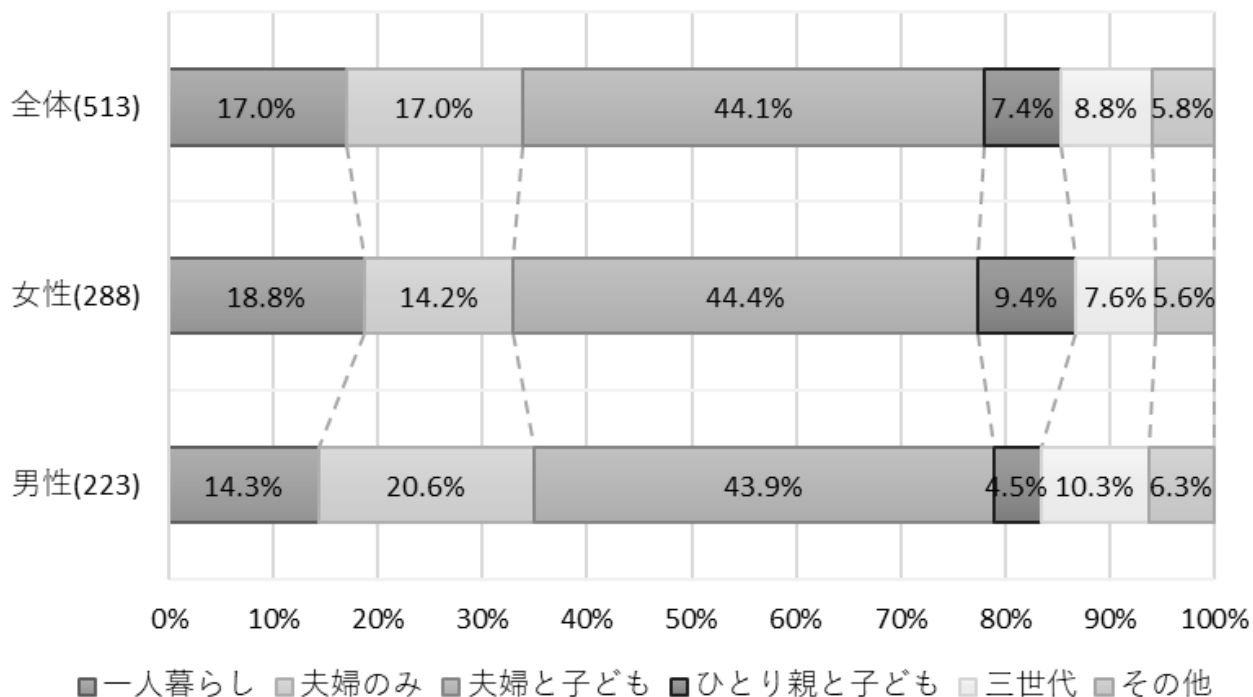


■ 10代 ■ 20代 ■ 30代 ■ 40代 ■ 50代 ■ 60代 ■ 70代以上

(人)	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
全 体	33	75	83	138	135	46	3
女 性	32	54	47	85	54	16	0
男 性	0	21	36	53	80	30	3
その他	1	0	0	0	1	0	0

### 問1-3：家族形態

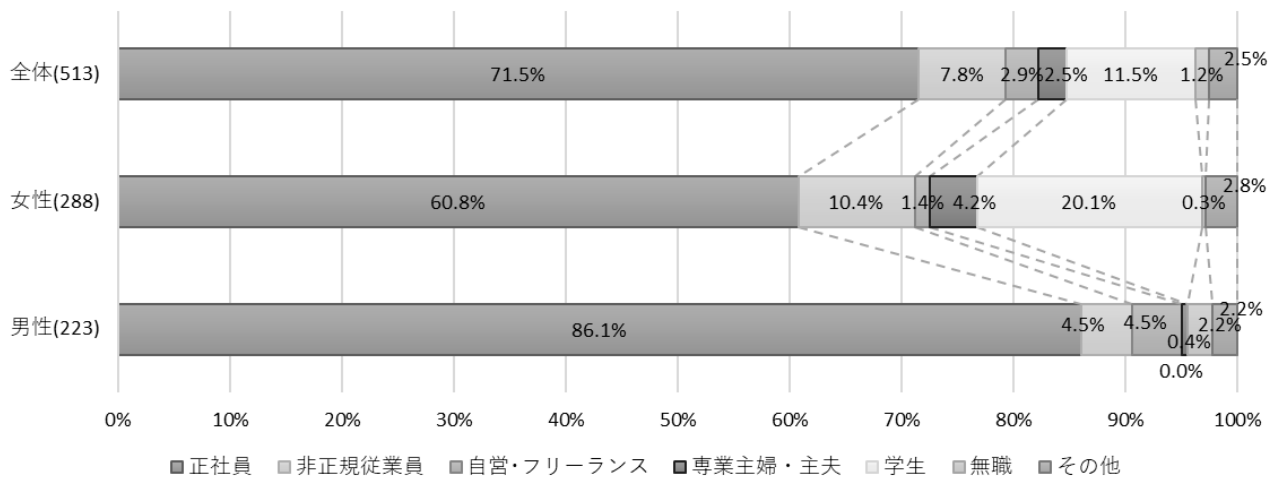
男女とも「夫婦と子ども」が最も高い（女性 44.4%、男性 43.9%）。次いで高かったのは、女性は「一人暮らし」（18.8%）、男性は「夫婦のみ」（20.6%）であった。



(人)	一人暮らし	夫婦のみ	夫婦と子ども	ひとり親と子ども	三世代	その他
全 体	87	87	226	38	45	30
女 性	54	41	128	27	22	16
男 性	32	46	98	10	23	14
その他	1	0	0	1	0	0

### 問1-4：就業状況

男女とも「正社員」が最も高かった（女性 60.8%、男性 86.1%、全体 71.5%）。

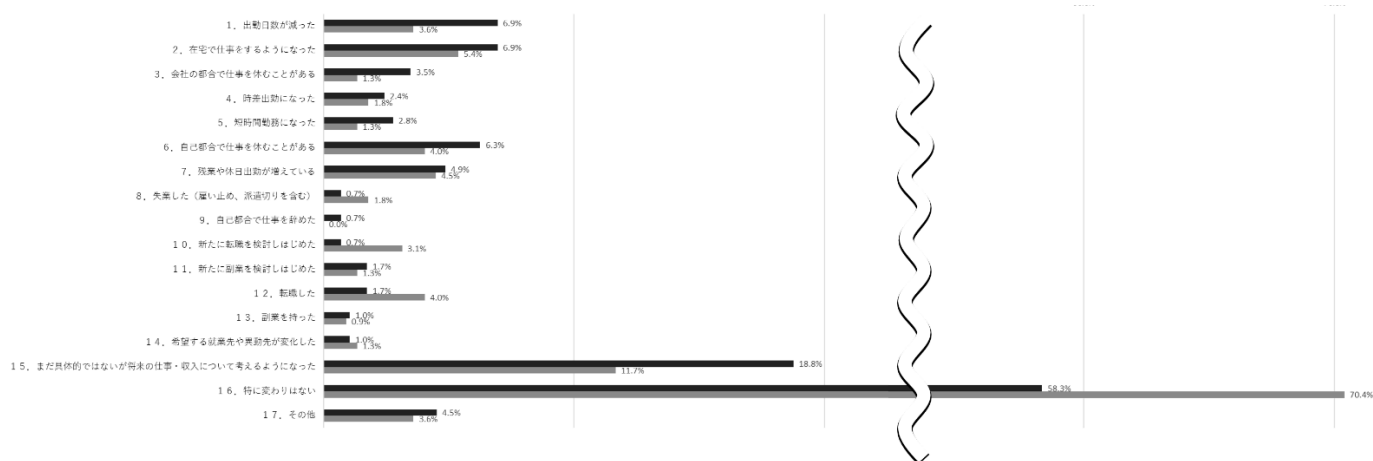


(人)	正社員	非正規従業員	自営・フリーランス	専業主婦・主夫	学生	無職	その他
全体	367	40	15	13	59	6	13
女性	175	30	4	12	58	1	8
男性	192	10	10	1	0	5	5
その他	0	0	1	0	1	0	0

## (2) 働き方の変化

### 問2 新型コロナウイルスの影響で、あなたの働き方は変わりましたか。(複数回答)

働き方が変わった人は、男女とも「特に変わりはない」が女性58.3%、男性70.4%と最も高く、次いで「まだ具体的ではないが将来の仕事について考えるようになった」が女性18.8%、男性11.7%であった。男女差が大きかったのは、「特に変わりはない(女性58.3%、男性70.4%)」で、男性が12.1ポイント高かった。(※以下、問6まで、記述項目は、一部抜粋)



	回答数 (人/複数回答)				男性 (223人) 女性 (288人) その他 (2人) に占める各回答者の割合			
	全体	女性	男性	その他	全体	女性	男性	その他
1. 出勤日数が減った	29	20	8	1	5.7%	6.9%	3.6%	50.0%
2. 在宅で仕事をするようになった	33	20	12	1	6.4%	6.9%	5.4%	50.0%
3. 会社の都合で仕事を休むことがある	13	10	3	0	2.5%	3.5%	1.3%	0.0%
4. 時差出勤になった	11	7	4	0	2.1%	2.4%	1.8%	0.0%
5. 短時間勤務になった	11	8	3	0	2.1%	2.8%	1.3%	0.0%
6. 自己都合で仕事を休むことがある	27	18	9	0	5.3%	6.3%	4.0%	0.0%
7. 残業や休日出勤が増えている	24	14	10	0	4.7%	4.9%	4.5%	0.0%
8. 失業した(雇い止め、派遣切りを含む)	6	2	4	0	1.2%	0.7%	1.8%	0.0%
9. 自己都合で仕事を辞めた	2	2	0	0	0.4%	0.7%	0.0%	0.0%
10. 新たに転職を検討しはじめた	9	2	7	0	1.8%	0.7%	3.1%	0.0%

1 1. 新たに副業を検討しはじめた	8	5	3	0	1.6%	1.7%	1.3%	0.0%
1 2. 転職した	14	5	9	0	2.7%	1.7%	4.0%	0.0%
1 3. 副業を持った	5	3	2	0	1.0%	1.0%	0.9%	0.0%
1 4. 希望する就業先や異動先が変化した	6	3	3	0	1.2%	1.0%	1.3%	0.0%
1 5. まだ具体的ではないが将来の仕事・収入について考えるようになった	81	54	26	1	15.8%	18.8%	11.7%	50.0%
1 6. 特に変わりはない	325	168	157	0	63.4%	58.3%	70.4%	0.0%
1 7. その他	21	13	8	0	4.1%	2.5%	3.6%	0.0%

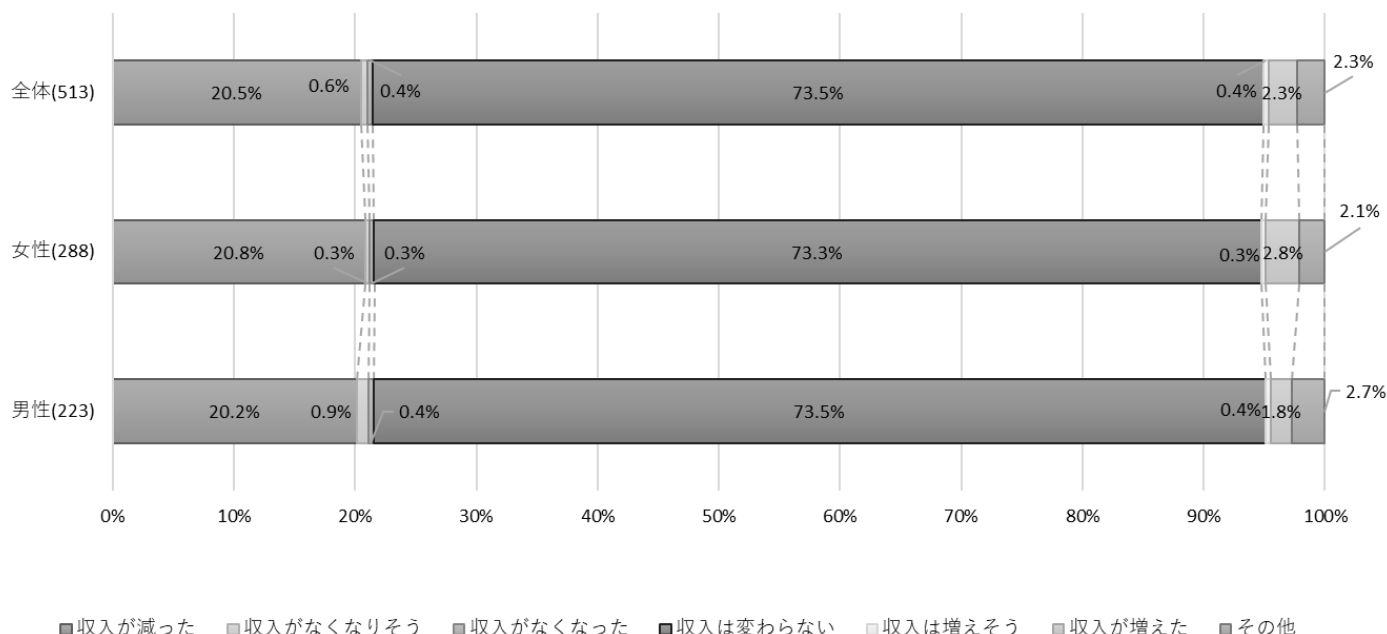
#### ○その他（自由記述）

- ・コロナとの接触で、家族が、自宅待機を命じられた。また、まわりのスタッフがコロナにかかり、勤務変更して、夜勤が増えた。夜勤が増えて、精神的、身体的に疲れた。また、医者からの暴言が増えた。
- ・コロナ拡大と同時に精神疾患が悪化して仕事に就く事が出来ないくらいに悪くなり現在も困窮した生活です。
- ・過労
- ・コロナのため新しくできた部署に配属が変わった。
- ・勤務体制や業務内容に変更ないが、休みをとりやすくなった。
- ・残業が減った
- ・マスク着用での就業が当たり前となった。
- ・在宅勤務の試験運用が始まった
- ・在宅者の仕事のカバーが増え、残業が増えた
- ・受注が減ったので新たな業務を模索している
- ・コロナワクチン接種を拒否したことで自己都合退職させられた
- ・子供の保育園でクラス閉鎖や登園を控える要請があり、仕事を休む日が多くある。（今後もあるかもしれない。）
- ・保育園の条件が厳しくなり預かってもらえないことが増えて欠勤せざるを得なくなった。
- ・コロナ疑いの家族がいて休んで給料が減った
- ・地方部の営業所がなくなって在宅&直行直帰営業に勤務形態が変わった

### (3) 収入・生活・行動の変化・心身等への影響

#### 問3 新型コロナウイルス感染拡大で、あなたや家庭の収入は変わりましたか。

男女とも「収入は変わらない」が最も高く、女性は73.3%、男性は73.5%であった。次いで、「収入が減った」が女性は20.8%、男性は20.2%であった。



(人)	収入が減った	収入がなくなりそう	収入がなくなった	収入は変わらない	収入は増えそう	収入が増えた	その他
全体	105	3	2	377	2	12	12
女性	60	1	1	211	1	8	6
男性	45	2	1	164	1	4	6
その他	0	0	0	2	0	0	0

#### ○その他（自由記述）

- ・スタッフが減ってしまい、それを補うために、出勤が増えてしまった。
- ・労働時間や負担は増えたが収入が変わらない
- ・コロナや半導体の不足から完成品が間に合わず、売り上げが上がっても利益に全く結び付かず、会社店舗 個人共悪影響を受けています。
- ・コロナの影響により、売り上げに影響が出た分だけ収入が減った
- ・通勤手当がなくなった
- ・減った時もありましたが、今は問題ないです。
- ・専業主婦なので収入なし

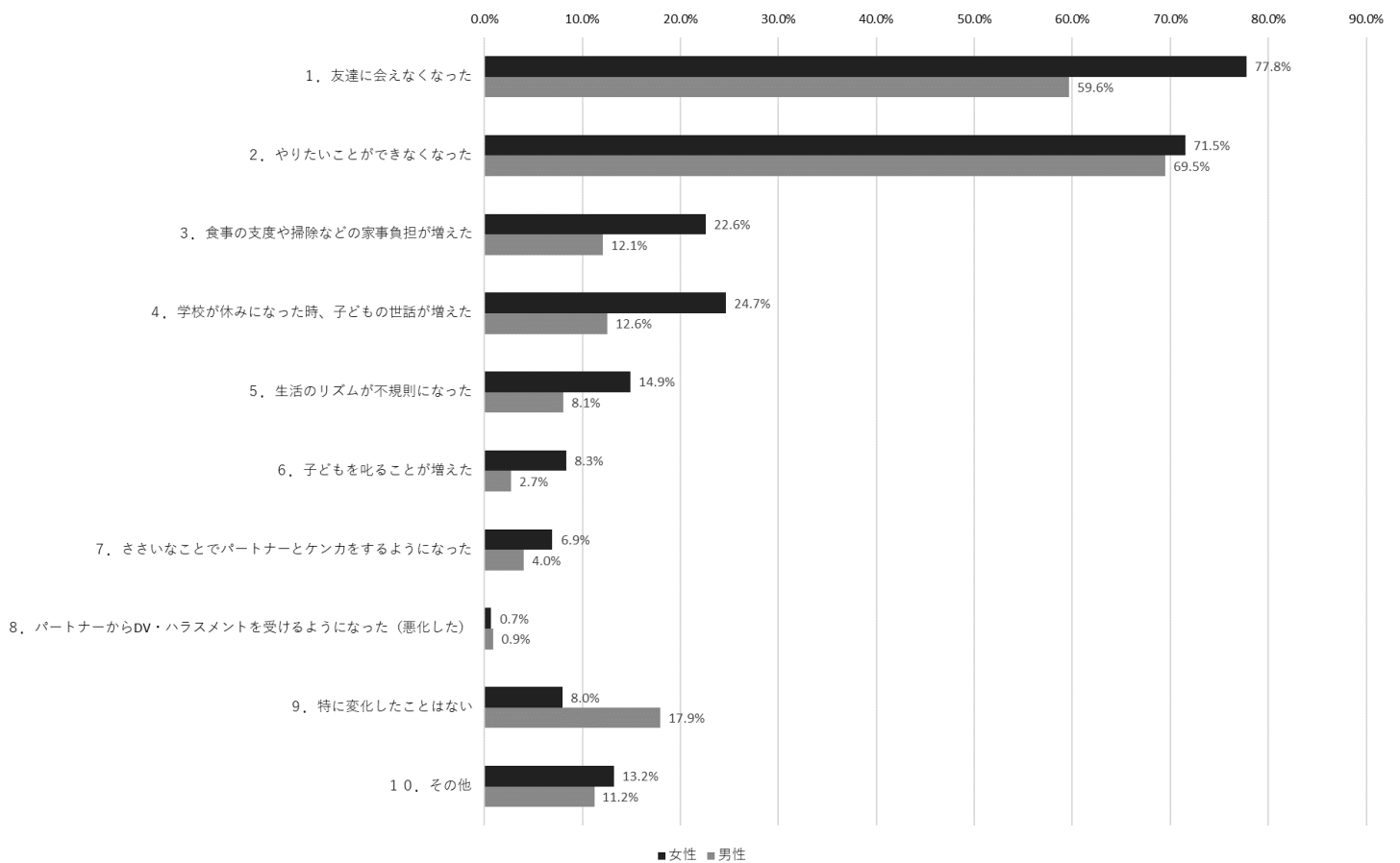


・手取りは変化ないがマスクや光熱費など余計な出費が増え可処分所得が減り日々の生活でさえ苦しくなった。

**問4 新型コロナウイルス感染拡大の影響であなたの生活や行動に変化がありましたか。（複数回答可）**

男女とも「友達に会えなくなった」（女性 77.8%、男性 59.6%）、「やりたいことができなかった」（女性 71.5%、男性 69.5%）が過半数を超えた。

「特に変化したことはない」（女性 8.0%、男性 17.9%）以外は、女性が男性より高く、「友達に会えなくなった」（女性 77.8%、男性 59.6%）は 18.2 ポイント、「食事の支度や掃除などの家事負担が増えた」（女性 22.6%、男性 12.1%）は 10.5 ポイント、「学校が休みになった時、子どもの世話が增えた」（女性 24.7%、男性 12.6%）は 12.1 ポイントと、10 ポイント以上の差があった。



	回答数（人／複数回答）			男性（223人）女性（288人）その他（2人）に占める各回答者の割合		
	女性	男性	その他	女性	男性	その他
1. 友達に会えなくなった	224	133	2	77.8%	59.6%	100.0%
2. やりたいことができなくなった	206	155	2	71.5%	69.5%	100.0%
3. 食事の支度や掃除などの家事負担が増えた	65	27	0	22.6%	12.1%	0.0%
4. 学校が休みになった時、子どもの世話が増えた	71	28	1	24.7%	12.6%	50.0%
5. 生活のリズムが不規則になった	43	18	1	14.9%	8.1%	50.0%
6. 子どもを叱ることが増えた	24	6	0	8.3%	2.7%	0.0%
7. ささいなことでパートナーとケンカをするようになった	20	9	0	6.9%	4.0%	0.0%
8. パートナーからDV・ハラスメントを受けるようになった（悪化した）	2	2	0	0.7%	0.9%	0.0%
9. 特に変化したことはない	23	40	0	8.0%	17.9%	0.0%
10. その他	38	25	0	13.2%	11.2%	0.0%

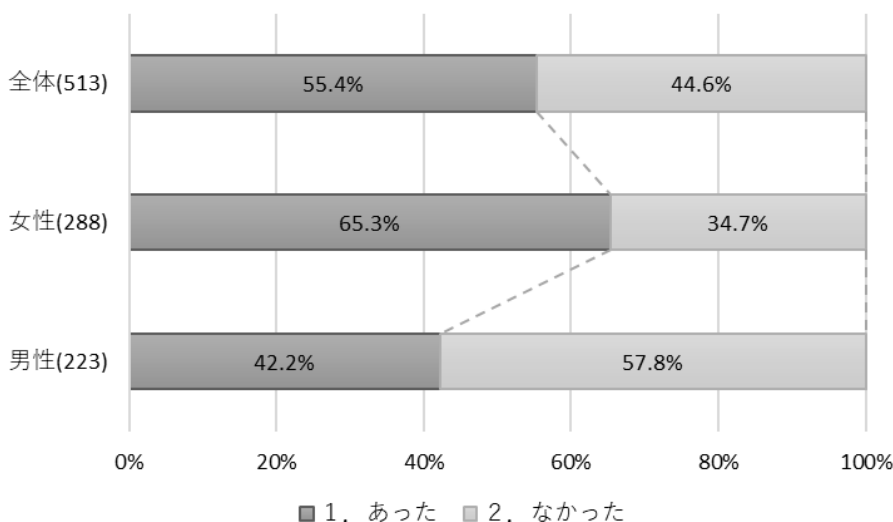
#### ○その他（自由記述）

- ・仕事が忙しくなった
- ・外食や外出が減った
- ・離れている兄妹や家族に会う回数が激減した
- ・病院や施設への見舞に制限がある
- ・常にマスクを着けているのが苦痛
- ・子供と気軽にスーパーに行ったり公園に行ったり当たり前のことがしづらくなった
- ・コロナ関連の意見の相違でパートナーと議論が発展して口論となることがしばしば
- ・ストレスによる過食、オンライン化による目の炎症、電気代の負担増、授業に対するモチベーションや集中力が明らかに低下した
- ・第2子の妊娠、出産があったが他県に両親がいるために手伝いを求められなかった
- ・物価は上がるのに、収入は減ったから生き地獄
- ・マスク、除菌用品等、出費がすごく増えた。
- ・自宅でも子供たちが飽きずに楽しめるように出費が増えた

- ・子供がタブレット等で SNS トラブル、動画を見過ぎて生活リズムが崩れるようになった。タブレット配布の弊害。
- ・子供を家で保育することが増え、会社を休むことが増えた。買い物も 1 人で行き、負担が増えた。
- ・子供の行事が減ってしまった。子供のイベントなどの楽しみが奪われてしまった。
- ・子供達の活動範囲が狭まり家に引きこもるようになった。
- ・子供が勉強の大事さがわからなくなっている。
- ・感染予防を考えると子どもは色んなところを触るのでそれに対して注意したりする事が多くなった。
- ・漠然と不安になり飲酒量が増えた
- ・自律神経の病気になった
- ・感染が心配で病院に行くことを控えた。
- ・家族で身近な楽しみ方を探すようになった。
- ・運動を始めるようになった
- ・インドア派でさほど外出は好まないの、社会全体で在宅推奨、外出倦厭の傾向になって却ってストレスフリーです（唯一給与面の不安を除けばですが）
- ・あらためて平等な政治運営が必要だと考えるようになり政治に興味をもつようになった

**問 5 新型コロナウイルス感染拡大の影響で、あなたの心身に変化がありましたか。**

心身の変化について、女性は 65.3%、男性は 55.4%と、男女とも 5 割以上が心身の変化があった。女性は男性より 9.9 ポイント高くなっている。

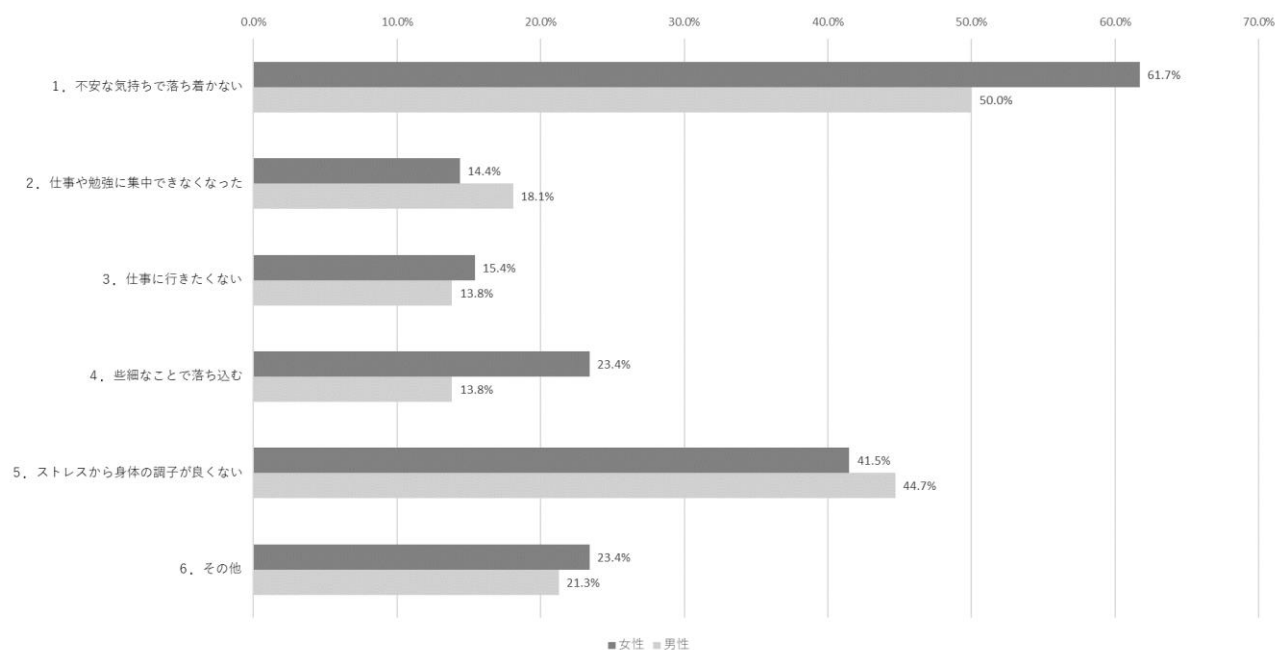


(人)	あった	なかった
全 体	284	229
女 性	188	100
男 性	94	129
その他	2	0

## 問5-2「あった」方の具体的な変化について

男女とも「不安な気持ちで落ち着かない」（女性 61.7%、男性 50.0%）が最も高く、次いで「ストレスから身体の調子が良くない」（女性 44.7%、男性 41.5%）であった。

男女差では「不安な気持ちで落ち着かない」（女性 61.7%、男性 50.0%）は 11.7 ポイント、「些細なことで落ち込む」（女性 23.4%、男性 13.8%）は 9.6 ポイント、女性が男性より高くなっている。



	回答数（人／複数回答）			男性（94人）女性（188人）その他（2人）に占める各回答者の割合		
	女性	男性	その他	女性	男性	その他
1. 不安な気持ちで落ち着かない	116	47	1	61.7%	50.0%	50.0%
2. 仕事や勉強に集中できなくなった	27	17	0	14.4%	18.1%	0.0%
3. 仕事に行きたくない	29	13	0	15.4%	13.8%	0.0%
4. 些細なことで落ち込む	44	13	0	23.4%	13.8%	0.0%
5. ストレスから身体の調子が良くない	78	42	0	41.5%	44.7%	0.0%
6. その他	44	20	1	23.4%	21.3%	50.0%

### ○その他（自由記述）

- ・マスクをしたりまわりに気をつかったりしてストレスを感じる
- ・他人のマスクの付け方や感染予防について自分の思う対策ができていない人を見ると苛立ちを覚える
- ・自分に対する自信の低下でマスクを外すのに抵抗が生じた。
- ・何かを実施しようと準備しても、「どうせ」コロナ対策で諦めなくてはいけないだろうなと考えがち

になった

- ・心身と関係あるかわからないが眠りが浅く十分な睡眠が確保出来なくなった
- ・ストレスを感じるが増えた
- ・運動等の機会が減って体力が落ちた。
- ・感染したらどうしよう。感染させてしまったらどうしよう。市外のショッピングモールへ買い物に行くのも不安
- ・家族以外の人と会うことに抵抗があるようになった、子供たちの日常生活がいつも心配
- ・子供を保育所に行かせるのが怖くなった。
- ・毎日イライラしている。
- ・気分転換が制限されるのでストレス発散が難しい
- ・やりたいことは即行動するようになった
- ・接種の有無で、肩身の狭い思いをする
- ・ストレスからかパートナーにあたってしまう事が増えた気がする。
- ・仕事を含めみんなで集まる事が無くなり飲み会などの楽しみが無くなった
- ・「エッセンシャル」とされる職業にあって、その業務管理の気苦労、プレッシャーが増大し大変だった。
- ・国や市区町村による対応に不満を感じ将来が心配になった
- ・世論がコロナ関連のことばかりでうんざり。
- ・何事も感謝の気持ちが増えた
- ・ストレスがたまった感じがしても、発散する場がなくスッキリしない。
- ・この先、収入が増えない限り希望が何も持てない

### 問5-3 これらの心身の変化に対して何か対策をしていますか。

- ・なにもしない時間をあえて作った。
- ・リモートで友達と電話をしたり、好きな映画を見たり、ちょっと高価なものを食べて普段より少し贅沢しています。
- ・薬を飲む
- ・ウォーキングなどで体を動かす
- ・余りうるさく言わないようにしている。
- ・あまり考えないようにゆっくり睡眠を取ったり趣味の時間を増やしたりしている。
- ・たくさん寝る
- ・不安になる情報に触れないようにする
- ・自分が変化すれば解決可能なストレスではないので対策はとりにくい
- ・離職を考えています。
- ・運動はしているがマスク着用や、人通りの少ない時間を選ぶため、防犯面で不安が増した。
- ・メンタルクリニックに通院した。
- ・万が一、新型コロナに罹患した場合を想定し自宅でお仕事できるように状況を整えたり、食料品を備蓄するようになった。

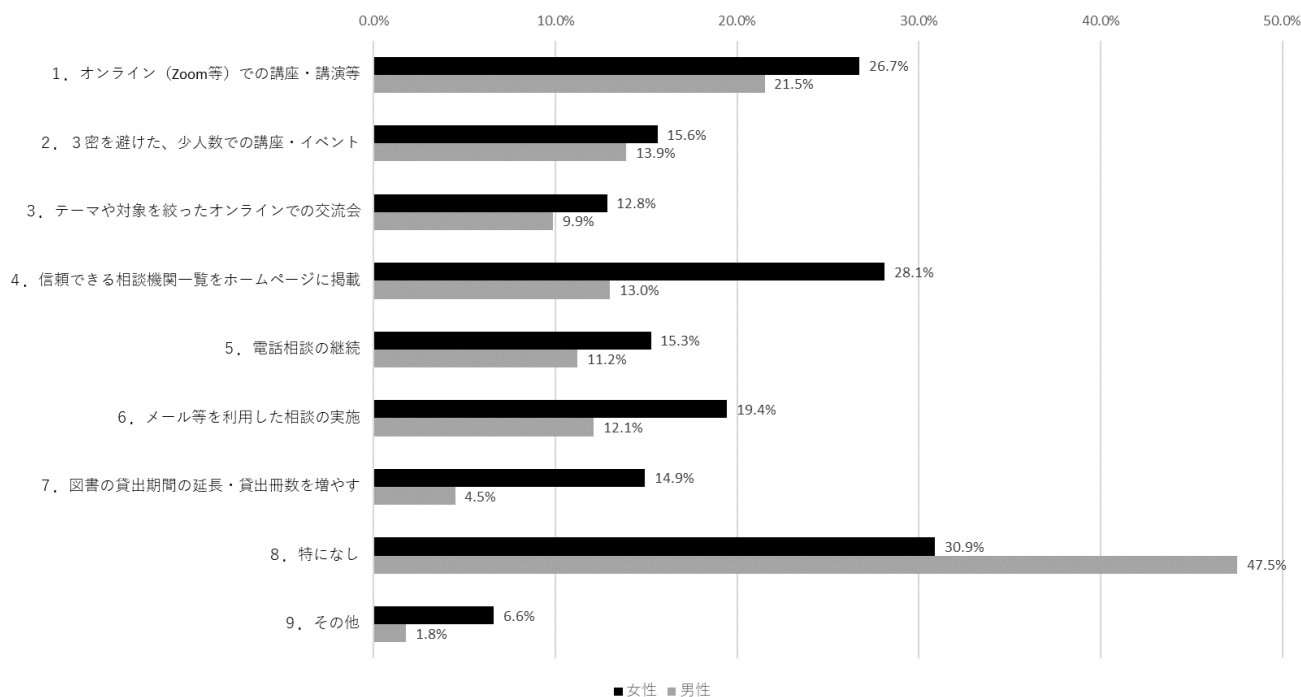
- ・本を読んだりして、いろいろな人の考え方をインプットしている。
- ・感染対策に注意をして、不安を減らすようにしている。
- ・大学を中退しました
- ・仕事で無理をしない、残業はなるべくしないで翌日に遅らせる。
- ・していない（何をすれば良いか分からない）

#### （４）ぐんま男女共同参画センターに望むサービス

問6 今般のコロナ禍のなかで、ぐんま男女共同参画センターにどのようなサービスを望みますか。

男女とも「特になし」（女性 30.9%、男性 47.5%）と最も高かった。

次いで高かったのは、女性は「信頼できる相談機関一覧をホームページに掲載」（28.1%）、男性は「オンラインでの講座・講演等」（21.5%）であった。



	回答数（人／複数回答）			男性（223人）女性（288人） その他（2人）に占める各回答者の割合		
	女性	男性	その他	女性	男性	その他
1. オンライン（Zoom等）での講座・講演等	77	48	0	26.7%	21.5%	0.0%
2. 3密を避けた、少人数での講座・イベント	45	31	0	15.6%	13.9%	0.0%
3. テーマや対象を絞ったオンラインでの交流会	37	22	0	12.8%	9.9%	0.0%
4. 信頼できる相談機関一覧をホームページに掲載	81	29	2	28.1%	13.0%	100.0%
5. 電話相談の継続	44	25	1	15.3%	11.2%	50.0%
6. メール等を利用した相談の実施	56	27	1	19.4%	12.1%	50.0%
7. 図書の貸出期間の延長・貸出冊数を増やす	43	10	1	14.9%	4.5%	50.0%
8. 特になし	89	106	0	30.9%	47.5%	0.0%
9. その他	19	4	0	6.6%	1.8%	0.0%

#### ○その他（具体的に）

- ・女性だけを対象にしない相談支援事業
- ・SNSを利用した相談
- ・自分のタイミングで聴講するために、講演の様子をYouTubeにアーカイブ投稿してほしい。
- ・副業、起業
- ・男女共同参画に関心を持たない人にも届くような情報提供方法の模索。たとえば中等・高等教育機関と連携した授業など。
- ・オンライン配信をお願いします。東毛地区住まいなので県央に行くのは億劫です。
- ・レクチャーより生の声を知事や国に届けて欲しい
- ・何をしているところかわかっていない。
- ・子供と参加できるイベント、ワークショップ
- ・加齢による心身の変化と対処法
- ・子供がいる人の働き方と社会の協力について
- ・勇気づけられるような講演
- ・コロナで閉塞的になっているので、気持ちが明るくなるような、講演会や映画会があったらいいなと思います。

## (5) コロナ禍での困りごと・行政への要望について

問7 コロナ禍で、あなたやあなたのまわりにおいて困りごとがありましたら教えてください。

(※ 御回答いただいた原文のまま掲載しています。)

### (コロナ・ワクチン・マスク)

- ・マスクの着用ができない小さな子供や、高齢者への影響が気になり、いつも神経を尖らせていなければいけないことがストレスになっている。
- ・今後のコロナの波が、どうなるかわからない、先が見通せない不安が困り事。
- ・小学生や中学生の子どもへの影響の方が心配です。マスク生活や黙食やイベントの中止など学校での楽しいことが全然できないのはかわいそうです。楽しい思い出も作れなそう。重症化しないといわれている子供には自由にさせてあげたい。
- ・ワクチン接種の安全性も心配しています。
- ・高熱と咳が続き喋れない状態に陥り2週間ほど思いコロナを疑ったが、対応窓口が電話しかないので何もできなかった。その体調でも生活必需品の購入は必要なため、感染拡大に構う事なく買い物に行かざるを得なかった。
- ・マスク生活で肌荒れと息苦しさが続いていること、周りに避けられてるような感覚になったり、人と話すことやすれ違いさまに挨拶することさえも積極的にできなくなってしまったこと、友達を食事に誘うこともできないなど、色々なストレスが蓄積している状況があります。
- ・後遺症専門外来が群馬にはない。色々な専門外来に行かなくてはならず不便。体調不良で、思う様に病院に行きたくても行けない。
- ・症状により、医者が診察をしてくれないのが一番困る。具合が悪く診察を希望しているのに、コロナウイルスの検査ができないから、検査ができる医者で受診するよう言われてとても困った。
- ・感染は心配。警戒度が低くなっても外出は控えたいし、熱中症に注意すればよいと思うので、ノーマスクも受け入れられないし、ノーマスク推奨は賛成できない。
- ・コロナによる生活や活動の制限を解除する方向に向かってほしい。それを行政が積極的に進めて、外や会話がなくなるときのマスクを外して行ってほしい。

### (仕事・収入)

- ・職場では部署ごとに仕事量の差がありすぎて、暇な部署はやりがいを感じない。
- ・収入が減った
- ・給料は上がらず、日々の暮らしは厳しいです。最近ストレスによる体調の悪化もあり、さらに大変です。
- ・コロナに関係する書類の整備、事務負担が増えた。次から次へと指示や常識が変わるので対応できず、なかばあきらめている部分もあることで不安。
- ・エッセンシャルワーカーと言われても、残業には限界がある。仕事が減って有休をとれたという人がいると羨ましい。逆に忙しくなって、残業は増えたが管理職扱いなので収入は増えない。世の中の不公平を嘆くようにはなってしまった



- ・コロナの患者をみていたけど、金銭的報酬が、なにもなかった。悲しかった。
- ・世間的に、新規採用にあたり多くの企業・官公庁の採用予定人数が激減しているのので、自身の周りの知人・友人が就職活動によって不安を抱え、ストレスで体調を崩したりしている。  
また、以前よりも将来に対する不安が大きくなり、気軽に勤務先を変えろといった選択肢も減りつつあるので、職場で何かあっても逃げることができる状況にない人が少なからずいると思う。
- ・夫の仕事が派遣社員で、突然仕事が休みになり、休業補償で6割は賃金が払われるが、何日も休みになったり、残業も減ったりで家庭の収入源になり夫も苛立ちやすい。
- ・夫の収入はコロナ禍で激減している。企業努力もしているが悪化している。夫婦共働きなのでほかの家庭よりは安定しているため、「コロナ禍以前より苦しい」とは話せる環境ではない。夫の勤務先は帰休なども実施しており、コロナ禍以前より夫が在宅している時間は長くなったが家事の協力が著しく増えてはいない。
- ・対面での交流機会が減り、大人数での懇親会ができなくなったコミュニケーションがとりづらい
- ・社員が感染したり、家族が感染して濃厚接触者になった場合、仕事に来れないので多く発生した場合、工場の生産活動に影響が多くでる。
- ・通勤する環境が無くなったため、同僚との何気ない日常会話をする機会が一切なくなり憂鬱。  
テレワーク手当が出ないので水道光熱費の負担が大きい。
- ・収入が減ったのが最大のストレス。いままで残業手当で稼いでいた部分が減り、かといって在宅ワークになるわけでもなくとにかく最悪です。私の勤務する事業所は群馬県の賞与支給率に準じて賞与を支給するのですが、今年は群馬県の支給率が減ったので普通に生活にダメージが来ます。
- ・在宅勤務が可能な部署なのに、基本的に緊急事態宣言が発せられないと在宅勤務ができない。そのため、同じフロアで陽性者が複数出ていると噂で聞いていても、在宅勤務を申し出ることができず、怖い思いをしながら出社していた。
- ・会社に行かないと仕事にならない。働き方について考えさせられました。
- ・収入が変わらないのに物価が上がって生活が不安になります。
- ・息子が感染してしまい休業中の収入が減ってしまった。有休休暇を使用させられ休暇も減った
- ・医療従事者です。先の質問に答えたように、コロナワクチン接種を拒否したことで退職に追い込まれました。とても理不尽なことだと思います。復職を考えていますが、コロナワクチン未接種でも雇ってもらえる病院を探すのに苦労しています。
- ・コロナに感染したのに、職場がなにも、手続きしてくれず、欠勤となり月額85000円カットされてしまった。労働基準監督署に事情をはなし手続きをしたが、従業員が300人以上いるからわたしは給付金に該当しないということになり、一切お金をもらうことができなかった。そのときのイライラと、悲しさや、社会から見放されたことが、引き金となり、起立性調節障がいと診断され、現在仕事をしながら通院をしている。
- ・夫が自宅で整体業の仕事をしています。個室で予約制のため換気は十分に出来ていますが、お客様にはそう言ったことは伝える手段はなく。来てくださる人数は減っています。
- ・教育現場のため通常業務にコロナ対応が加わり、業務負担は増えたが収入は全く変わらなかった。多忙によるストレスと、金銭面への不安により、心身に不調をきたしやすくなった。
- ・教育現場は、コロナ対応でどこも業務負担が増えていると思う。在宅勤務はできなかった。

- ・介護現場でコロナに感染し、後遺症がある。介護現場は、マスクをしなければならない。換気も中々難しい。フェイスシールド、二重マスク等で対応。
- ・会社でセミナーを色々実施したいが、大勢で集まれないことで躊躇する。従業員同士の交流の場がない。試行錯誤しているが、若い世代はもともと会社内での交流を望んでいないようだ。個人としては家庭生活での困りごとは特にない。
- ・施設に勤めているので、入居者様が家族との面会を制限されていることと、今までできていた慰問の受入や外出企画ができないことで、入居者様とご家族のストレスは大きいと感じる。家族との連絡調整や施設内でできる行事やレクを企画することが増えている。
- ・本社への報告事項が増えストレスになっている。
- ・コロナ禍よりも前から職場の人間関係に悩んでいたため上司に相談したが、上司が担当部署に相談したところ、その部署の担当者から「コロナ禍だからみんなイライラしている」とコロナのせいになされてしまい、コロナが消滅するまで解決できないのかと途方に暮れている。
- ・客商売だが来店するお客様の中にストレスを従業員にぶつける方が増えた。
- ・小学生と中学生のお子さんがいる母子家庭で、中学生のお子さんがコロナにかかり濃厚接触者として、パートを2週間休んだ。その後2ヶ月たち、落ち着いた頃に、今度は予防注射はしていた母親がコロナにかかってしまった。また仕事を休まなくてはならず、パート収入は減り経済的に苦しくなった。また子どもたちと家に籠らなければならず、親子共々ストレスが溜まり大変だった。
- ・収入が変わらないのに、税金等の支払い金額は変わらず、逆に増える事があっても減ることがない。それがストレスになる。
- ・在宅勤務が可能な業務であっても部署によってリモートで仕事をする、しないの差がある。
- ・受注先の会社から連絡が無くなり収入が無くなった。補助金が出ても十分な金額では無いので辛い。転職も考えたが、妻の体調を考えると今の仕事が良いのでどうにかしたい。
- ・会社経営をしております。コロナで影響で仕事が減っているので従業員の雇用を守れるか不安です。コロナ感染者は減ってもすぐには売り上げが上がらないので会社の存続も不安です。

## (家庭)

- ・コロナでマスクや、アルコールウエットティッシュの購入負担が増えたので、出費が増えている。
- ・3世代同居はストレスがたまる。
- ・母子家庭では、人とかわることができなくなったために子と二人きりの時間が増えて精神的に参ってました。特に医療や高齢者施設で働く方は気を使われていて、外出を過剰に控えているような感じがします。
- ・それぞれが家にいる時間が増えたので、一人の時間が無くなり、ストレスを感じるが増えた。
- ・子供たちの学校生活の楽しい思い出がなくなってしまうことが続いて、将来を期待しない子が多くなっていると感じる。年配の方も家にこもりがちになり、社会とのつながりが減って、鬱・痴呆が進んでいる人もいます。
- ・夫の会社の休みが多くなり、家にいることが多くなった。夫婦親子関係が悪化した。妻が子どもを連れて家を出たが、預貯金がなく、当座の生活費が困っている。

- ・配偶者が家で、リモートワークをする日が多くなり、狭い家なので、オンライン会議の音声は漏れ聞こえるので、ストレスになる。また、大きな音を立てないよう気を遣うのは、少し負担。ただ、リモートワークによって、仕事を休まないですむのは、収入の面では助かる。
- ・困窮世帯または個人に対する給付や貸し付けとかをもっと条件を緩和し、拡充して行った方が良いと思います。
- ・国政のほうでは、2020年に一律10万円の給付が一回だけでしたし、しかもコロナ対策というよりは経済対策でした。一応当時は生活の足しにはなりはしましたが、国民一人ひとりの生活よりも経済界全体を大切にしたいというようにしか感じられなかったのは非常に残念でした。一方で私の住む市では、マイバック、マスク、ハンドソープ等市政で可能な限りの支援をしていただいた事は非常に感謝しております。小さな事でも場合によっては大きな支援につながると思います。
- ・親が入院し、その後他界。仕方ないとはいえ面会がほとんどできなかったことは悔やまれる。ストレス増加、離職を考えています。陽性者復帰後の接し方について、何か指針があるのでしょうか。

### (子ども)

- ・子どものメディア使用時間が増えた。運動不足。自分自身が感染した時の家族や職場への影響を考えるととても不安になる。
- ・子供がコロナ禍での3か月の在宅期間に、学力低下が顕著だった。(子供の在宅期間でも両親は仕事があり、目を掛けることができにくかったため)
- ・コロナ禍で病院へ行くことが恐怖でした。病院へ行くことを自粛したことにより、本来受ける期間に子どもに予防接種(日本脳炎など)を受けさせることができませんでした。子どもの予防接種期間の延長(猶予)を切にのぞみます。
- ・公園や買い物など、子どもをどこかに連れて行くにも人の多さやマスクの有無など気にするようになり、また落ち着いて遊ばせられない。平日は子どもを見てもらえないし、家にずっと2人きりだとストレスになり子どもの何気ない行動にイライラし悪循環。
- ・学校の欠席の基準がわかりずらく、トラブった。体調不良のこどもがいた場合、同じ学校の兄弟も欠席となる(コロナであった場合の感染拡大予防のため)のはわかるが、受診もし、コロナは疑われず、体調も回復したが、念の為休ませた日に、その旨を書いた欠席届を持たせ、兄弟を登校させたら、すぐに帰された。元気な子までも、教育の機会を奪われ、いつまでこの状況が続くのだろうと思うと嫌になる。外食・旅行を楽しみたいのに感染の不安があり抵抗がある。
- ・子どもが過度にコロナを恐れているようで人混みに行くのを怖がっている。これから受験などを控えているため首都圏に行かなければならないとは思いますが子どもの心身の不安が心配。
- ・学校が休校になった場合の学童へ預かってもらう費用。しょうがない事なのだが、子供たちのイベントが減ってしまったのが残念。休日に外出する機会が減り大変、ストレスが溜まる。
- ・子供が市からタブレットを配布されタブレット学習が主になってきているが、動画を見ながら漢字練習をしたり、見る時間を守らなかつたり、帰宅が遅い保護者は管理するのが困難。キッズYouTubeは視聴禁止にして欲しい。メディアとの付き合い方が大きく変わってしまい、子供が人の話を聞かず

怒鳴ることが多くなったため。近所から苦情が来るが、タブレットは学校で預かってもらえず困っている。中学生は更に、反抗期もありタブレットへの依存度ひどいため学力が明らかに下がり、収入は減ったのに塾に入れなければならなくなり本末転倒である。タブレットの廃止または、厳しい動画制限を希望。

- ・小学校で必修クラブの講師をしています。現在はコロナ禍を考慮して中止です。なんとか学校にはリスクを取って再開して欲しいです。
- ・マスクもう嫌だな。という小学生の子供の声に切なくなります。
- ・学校での黙食。一番楽しいはずの給食の時間なのに、楽しくない。修学旅行に運動会。学校での1年は大人の1年とは比べ物にならないほど大切なのに。中止や縮小ばかり。

### (大学生)

- ・金がない。春から東京から群馬に来て一人暮らしをしている大学生だが、実家の家計が危ないので送りもしてもらっていない。奨学金とバイトで何とか賄っているがどうにも厳しい。学業との兼ね合いもある。厳しい。今借りている貸付の奨学金の額を増やせばいいと言う声もあるが、将来が暗い中、リスクしかない。現実的に考えて将来借金まみれになるのは苦しい。外出自粛、イベント中止などなど高齢者にとってはコロナ禍に劣らないストレスで健康を害している方がおおい。なんとか外出や会話普通に再開できる方策を周知してほしい。
- ・親の収入が減ったことで、自分のアルバイトのシフトを増やさなくてはいけなかった。オンライン授業が主流になった時期はうつ病を抱えた親と常に一緒にいることになったため、自分も鬱状態に陥り授業に出席できないことも増えた。そのことから給付奨学金打ち切りの警告通知がきて心身の問題と経済状況のストレスを抱えるようになった。収入が減ったため学費が支払えるか心配。ずっと気分が落ち込んでいて、普段の生活で楽しいと思うことはあっても心から楽しめないと感じることが多い

### (離婚/DV)

- ・2年前に、母子家庭の方で、DV・虐待で離婚を決断。今年に、ハローワークで仕事を探しフルタイム勤務に就いたが1ヶ月足らずで職場の奥様にいきなり1ヶ月お疲れ様でした、明日からもう来なくてよいです と言われ… 配布のネギ3本を喜んで受け取っていただきました。現在は、資格を取るためにハローワークへ通いながら日々奮闘しています。女性は、苦難に遭遇して強くなっていくのだと感じました。人、それぞれですが立ち止まっていられない状況だと思います。艱難辛苦にもめげずに頑張っている方を微々たる応援事業ですが応援していきます。
- ・こども食堂を行っていますが、ある女性の方はコロナの影響でしょうか、仕事のことでしょうか、あるいは、育児の関係でしょうか、離婚され子ども二人を引き取りながら、国家試験にチャレンジされ、逞しく生活されている方があます。また、経済に及ぼす影響でしょうか、離婚される方が数人おられます。

## (ストレス・不安)

- ・収入が、少なく、高齢の両親、持病持ちの兄弟の世話でストレスが溜まる一方。子どもとスーパーへ行き、カートに座らせると色々なところにベタベタ触ってしまうので、こまめに除菌シートで拭いている。コロナ前より神経質になっている。濃厚接触者になると仕事や買い物ができず、生活困難になってしまう。
- ・私の場合は、仕事の環境や収入などは変わりませんので、趣味の旅行に行けないのが何よりもストレスで、パートナーと些細なことでの言い合いが増えたように感じます。職場や家庭、外出先で手を消毒したくないなどでストレスが溜まるようになったるようになった。
- ・2年前のコロナ禍の状況と現在の状況ではだいぶ対応の仕方も慣れてきています。消毒液・マスク等も充実し安心して生活ができています。
- ・コロナ禍に対する補助金等が多く出ていますが、今後その支出をカバーする増税等が予想されます。国債乱発で収支を補っている状態ですが、債務超過になるのも時間の問題で、10年後以上先にどれだけの増税を含む支出増が待ち受けているかと思うと不安です。
- ・長男が東京で一人暮らしをしており、帰省のたびにPCR検査を行い、感染していないことを確認してから帰省させるようになったが、PCR検査に毎回1万程度の費用がかかる。今まで旅行や買い物で発散していたストレスが、気軽に発散できなくなった。
- ・出かける事への不安が大きく、必要以外出かけられない。あまり気にせず外食などをして感染したりした人の事を聞くと自分は我慢しているのにとストレスになる
- ・他者との交流を控えるようになり、あまり気力が出ず、不安やストレスを感じている。
- ・ストレスの持って行き場がない。
- ・コロナが少し落ち着いたとしても、小さな子供がいるため気軽に遠出など出来なくなった。やりたいことを思うように実行できないことは少し悲しい。
- ・外出が制限されたことにより、コミュニケーションをとることが難しくなった。旅行や外食、観劇などの趣味を楽しむことが少なくなった。
- ・ストレスが、たまっている人が、増えた。また、ストレスの発散の仕方が、分からないように思う。
- ・コロナと妊娠が重なり、気を付けなくてはならないというストレスがある。また、外出も控えるようになり一層ストレスがたまる。コロナ禍のストレスで体調を崩し、通院することが増えた。
- ・とにかく人に会えないストレス。ろくに会えずに癌の親友がなくなってしまった。後悔してもしてもしきれない。ストレスが溜まりに溜まっている。
- ・心身の不調、人との絆の軽薄化、親子兄弟にも自由に会えない。施設に入居中の親とも面会ができない。
- ・男性側の育児のストレスや出産にともなう寄り添い方、生活の変化などの知識が不足していると感じた。県外からの移住のため、親戚が近隣におらず頼れる人もいない状態で、コロナにより両親も動けずという状況だったため、妻のつわりでの入院中や、出産時の入院中にかなりのストレスがかかっていたようで、メニエール病を発症した。第2子が4ヶ月目に入り、やっと生活リズムが安定してきたが一番3ヶ月目が大変に感じ、気合いと喜びで乗り越えられる1,2ヶ月目よりも、3ヶ月目が疲れも出始めてという段階だったので3ヶ月目でのサポートもあるとうれしい。
- ・妊娠と出産の中でコロナへの不安メンタルの不安定。里帰りが県外になるので躊躇う

### **(その他)**

- ・コロナの感染も落ち着きが見られ、もし感染しても対策や対応の薬などもわかってきたので、普段の生活ができるようになりました。特にこれ以上は制限など設けずに、対応策などを充実していただければと思います。

### **問7-2 問7の困りごとに対して、行政に対応してほしいことはありますか。**

**(※ 御回答いただいた原文のまま掲載しています。)**

### **(コロナ・マスク・ワクチン)**

- ・マスク着用についてのガイドラインの緩和
- ・子どもたちのマスクを禁止にしてほしい。先生のマスクも外してほしい。子どもが、先生の表情がわからずこわがっている。3歳に黙食なんてやめさせてください。子どもたちにコロナ対策をさせるなんて、おかしい。
- ・ノーマスク推奨は「時と場合を限定」だとしっかり提示してほしい。
- ・コロナの飲み薬を早く開発して欲しい。
- ・適切に距離等が取れる場合のマスクの不要性の周知。
- ・子どもの予防接種期間の延長(猶予)を切にのぞみます。
- ・県内の医療機関等で無料でPCR検査を行っていただけるとありがたい。
- ・コロナを二類から五類へかえてほしい
- ・コロナウイルス検査を行う医院を増やし、患者が希望する医院で受診できるようにしてほしい。
- ・ストレス解消になること。感染の不安がなくなるようにしてほしい。

### **(子ども)**

- ・こどもたちから、コロナにより家庭からの支援が受けられなくなった、恋人から暴力を受けたなどの相談を受けます。
- ・学童保育などの費用。子供たちのイベントが減ってしまった分の、何か別の思い出作りをサポートして頂きたいです。
- ・タブレット学習の廃止
- ・少人数での校外体験型学習の再開
- ・子供に対する虐待が多くニュースになっているのでどうにか改善してほしい
- ・日本学生支援機構の給付型奨学金を利用しているのだが、システムに問題がある。給付型は、自宅通学与自宅外通学でそれぞれ給付額が違う。私の場合は第一区分の自宅外なので、自宅通学の29200円ではなく、自宅外通学の66700円を貰うことが出来る(月37500円の差)しかし、自宅外通学であっても、自宅外なのか審査をするため、4月はまだ自宅通学の額面で振り込まれるとのことだった。そして、6月になったが、未だに自宅外の金額では振り込まれていない。大学の事務局に慌てて問合せたら、例年8月からだと言われた。これでは8月になる前に飢えてしまう。せめて8月までかかると告

知して、それに対する支援をして欲しかった。

### (子育て)

- ・事前に心構えや、行政側での出産を迎える男性側に対してのアプローチもお願いしたいと感じた。第1子の時はあったプレパパ・プレママなども第1子がいる状態では状況が変化しており、どう動けばよいのか安定しなかった。
- ・先程話したように、離婚された方の家庭状況は大変厳しいかと思しますので、育児支援の必要性を感じます。いま、経済格差や所得格差などで、子育て支援の無償化が問題になっていますが、国や自治体の支援体制を充実することが、求められますね。

### (給与・給付金)

- ・給付金を出してほしい。電子マネーは、高齢の両親には使いこなせず、登録さえできない。
- ・給付金や児童手当はとても助かっています。引き続き生活の後押しというか、バックアップをしてもらえると嬉しいです。
- ・一人親世帯や低所得世帯などには、色々な対応や対策があり補助金などありますが子供が大学生、親の介護等、ダブルで抱えている世帯には何も策がない。
- ・収入減にたいする一律手当
- ・給付金や金券の販売
- ・個別の業種だけが困っているわけではないので、国民全員が享受できる形での支援を望む。ガソリンの二重課税や補助金、飲食店への手厚い加護など。介入できるのであれば、中小企業(下請)が大企業(元請)に対して値上げできる施策、企業努力ではどうにもならない部分を国が対応すべき。
- ・飲食店のみではなく、全ての企業への補助金の交付(特に飲食店が目立つのはわかるが、どの企業も在宅ワークでのシステムの見直しや社員への対応等少なからず設備投資や福利厚生での負担があるため)。
- ・ダブルの出費が重なり、とても生活が苦しい。
- ・本当に困っている人に対しては、生活保護が受けられるまでの当座の生活費数万円を、無利子ですぐに貸付できるといい。生活保護費や収入があった時にすぐ返済してもらおう。
- ・我々サラリーマンもコロナの影響で収入が減っているので何かしらの援助をお願い致します。飲食店ばかりをひいきしないで下さい。
- ・企業に対して、男女の賃金差別をなくすよう働きかけてほしいです。定年退職まで働く女性も増えていきます。自分で稼いで生活していかななくてはならない人も増えていきます。日本全体で給与がなかなか上がらないためです。女性は賃金がなかなか上がらず、昇格昇進も男性に比べ遅いです。休みを取ることがマイナスに働く、残業をしないと仕事を一生懸命やっていると思われたい、そんな風潮がまだまだ根強く残っています。賃金差別をなくさないと企業に罰金、社名を公表、など、男女格差をなくすため、あらゆる手立てで働きかけてほしいです。よろしく願いいたします。
- ・企業にテレワーク手当を義務付けてほしい(通勤手当のように支給するのが当然という風潮にしてほ

しい) 私自身も職業柄あちこち出かけるわけにはいかない。GOTO キャンペーン等で得ができる人とその制度が活用できない人もいることをわかってもらいたい。

- ・売り上げが減れば銀行はお金を貸してくれないので会社の支援をお願いしたいです。
- ・コロナ対策認定店のお店を時々、覆面でチェックしてもらいたいです。外食を控えているので、安心して外食が出来るようにしてほしい。カウンターにできた料理を置き、店員が運ぶ…そのカウンターでは馴染みの客がノーマスクで店員とおしゃべり…料理の上で…認定店だから安心と思い行ったのに…認定の審査の甘さを感じました。

### (イベント)

- ・私は子ども食堂をしています。話したり、あえなくなったり、人の付き合い方が浅くなってしまい、疎外感、孤独を感じる人が多いように感じます。そのような感情はきっかけがなければ、ひとりでは解決しづらいと思います。Zoom や電話ではなく、もっと目を見て話せたり、新しい経験ができるような楽しいイベントが小規模であると思います。
- ・これまで実施していた行事などを全て中止にするのではなく安全に実施する方策を取って実施する。高齢者にも諦めないでリモート機器で社会参加できるような指導をおこなう。
- ・人とのつながりや、楽しみが増えるようなサポート・企画をしてもらえるとありがたい。今は、我慢の時だと承知しているが、市民に向けて、行政はいつも支援体制にあるということ、発信し続けてほしい。
- ・婚活しにくい。¥7000 でマスク付けて3分対話させられても何もわからない。飲み物も、レクリエーションもあると書かれていたが実際はなし。そのことは、申込時に書かれていない。行政指導が必要。
- ・感染予防対策をしっかりした上で、どんどん色々なイベントを開催してほしい。(祭り等)

### (DV/離婚)

- ・DV で子どもと共に夫の元から逃げてきたが、児童手当は世帯主の夫の元へ行ってしまうので、手続きが必要となる。市町村によっては、婚姻関係のある夫婦は世帯分離ができないということで、夫の社会保健から抜けて、国民健康保険に入ったのに、また夫が世帯主となってしまう、児童手当を母親に移すことができなかった。DV などの理由がある場合は夫婦間での世帯分離ができることを、徹底して欲しい。

### (その他)

- ・健康診断や、がん検診の受診を促してほしい。受診しないと損をする仕組み等があれば、受診してくれるかもしれません。
- ・コロナ感染後の相談(収入・就業)についての窓口を設置してほしい。あったとしてもわからないのでもっとアナウンスしてほしい
- ・雇用した外国人の管理・指導を企業に働きかけて欲しい。
- ・医療や福祉現場で働く人たちのストレス解消の取り組みをお願いします。



- ・相談窓口をわかりやすく開設してほしい。
- ・若者の居場所づくりや、金銭面的な支援を期待します。
- ・子どもが住みやすい街であり続けてほしい
- ・セミナーの種類をもっと増やして内容を濃くして選択肢を広げてほしい。ありきたりのものはネット検索すれば欲しい情報を拾えるので、広い視野を持った講師をお願いしたい。
- ・近くに、安くてリモートワークできる場所があれば、助かる。
- ・介護と仕事の両立は思うより大変です。まだまだ産休や育児休暇の様に堂々とお休みできる雰囲気ではありません。いつまで続くかわからない介護と離職せずに向き合っていくためには、育児同等の配慮が必要だと思います。コロナ感染者が多い時、学校が休校になるとそれなりの対応があった反面、介護施設に通えなく、在宅での介護を強いられた場合の対応はなにもありませんでした。これからを担う子供に対して考えてくことはもちろんですが、今まで頑張ってきた高齢者に対しても、何か最後まで安心して終われるような仕組みができればと思います。とにかく皆が安心して生活できるような施策を考えてください
- ・夫婦ともに変則勤務で、親の協力が得られないため、今は時短勤務をしている。時期が来たらフルタイムになり、夫婦とも早朝5時出勤となった場合、小学生の子どもを置いてくる不安がある。派遣の夫が主夫となる方が福利厚生を考えても良いのはわかるが、夫も男の意地みたいなものがあり望まず、自分が働き方を変えるしかないかと考えるが、そうすると将来が不安。時代が変わっても結局子どものことは母親が面倒みることが多く、女性の就業形態が正職員であっても、子どもが自立できる年齢になるまでは、希望をきいてもらえるような働き方改革をしてほしい。結局女性は家庭を考えると非正規の働き方が合理的な社会が問題と思う。
- ・公的な機関（官公庁、団体職員・・・など）を就職先として希望する人が増えてきた昨今、新規採用として応募ができる年齢の間口を広げてほしい（多くの行政機関は20代後半までで制限しているので、30代前半までに変更するなど）。または、新規採用者応募制限以降の世代の応募について、採用人数を増加していただきたい。現在では、20代後半の就職活動者も多く、年齢制限を過ぎたばかりの応募希望者にとっては、まだまだ働く意欲のある年齢であるのに、たった数年過ぎただけで応募機会がなくなり、働き盛りに就職するチャンスを逃してしまうと思う。

# 参考資料

## ～令和2年度調査と令和4年度調査の比較～

### 1 令和2年度調査と令和4年度調査について

下の表のとおり、令和2年度では女性を対象に調査を行ったが、令和4年度は性別を問わず調査を行った。

なお、女性の有効回答者数について、令和2年度は826人、令和4年度は288人であった。

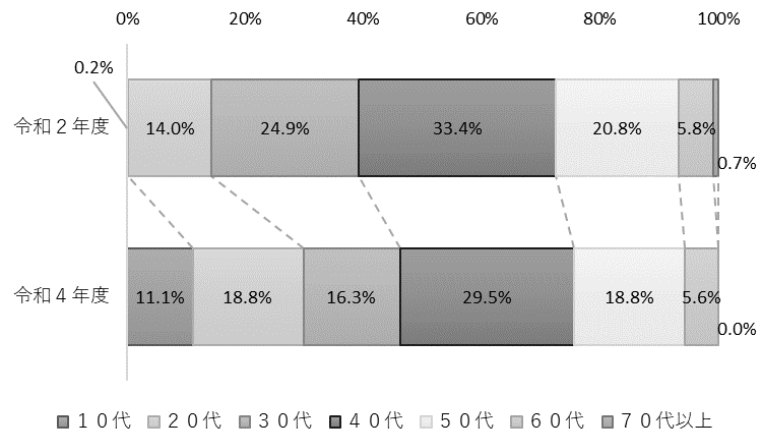
	令和2年度	令和4年度
調査対象	県内に在住または通勤・通学している女性	県内に在住または通勤・通学している方（性別は問わない）
回答者	826人	513人
今回比較対象	826人	女性288人
調査方法	群馬県庁電子申請システムを利用したWEBアンケート	同左
調査期間	令和2年9月25日（金）～10月9日（金）	令和4年6月10日（金）～7月15日（金）

## 2 回答者の属性

### 2-1 年代

令和4年度は、令和2年度と比較して10代と20代の回答割合が増加した。いずれも40代が最も高くなっている。

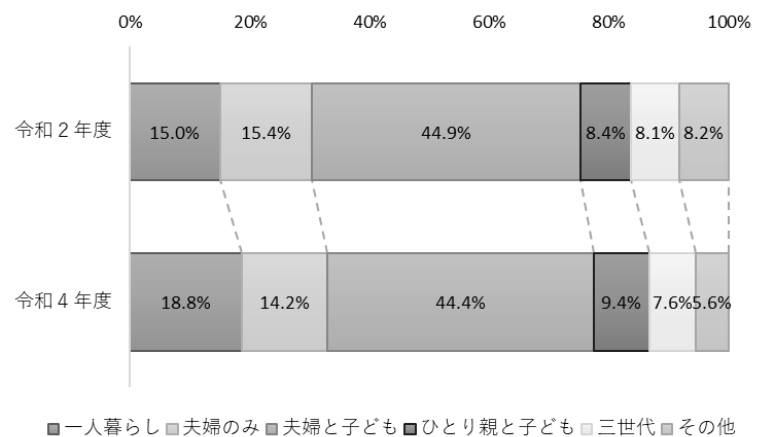
年代（人）	令和2年度 回答人数	令和4年度 回答人数
10代	2	32
20代	116	54
30代	206	47
40代	276	85
50代	172	54
60代	48	16
70代以上	6	0
回答数合計	826	288



### 問1-3：家族形態

いずれも「夫婦と子ども」が4割を超え、最も高くなっている。

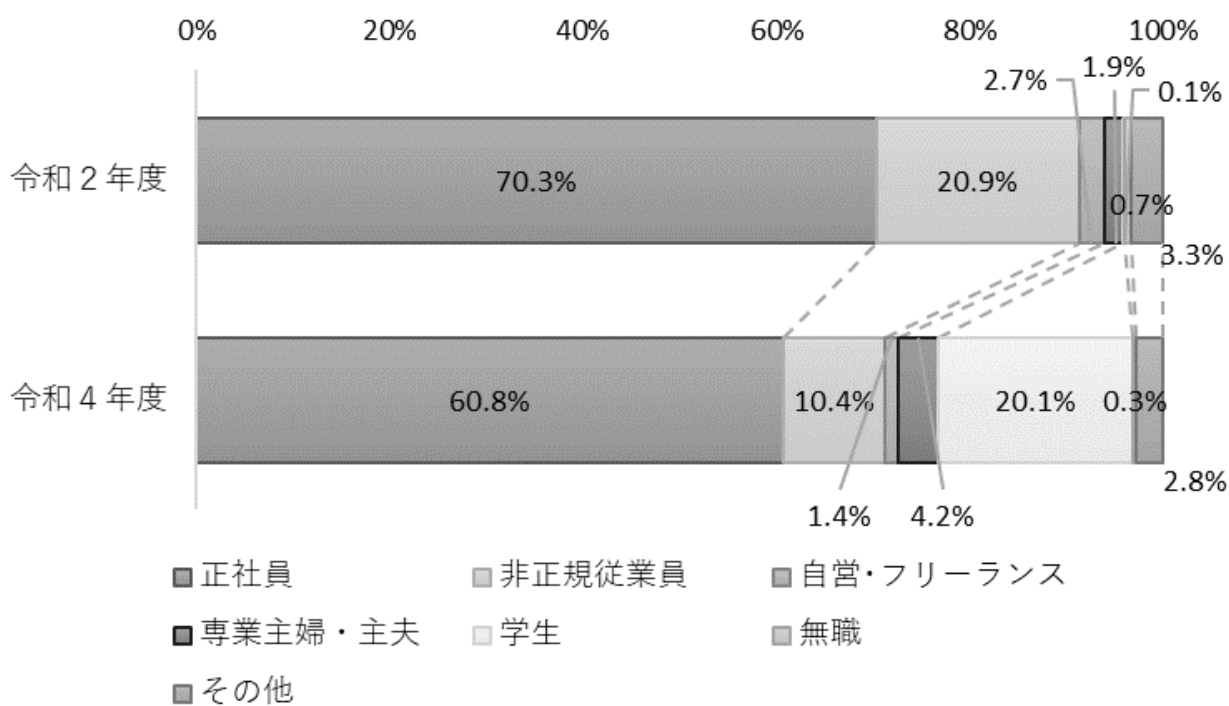
家族形態（人）	令和2年度	令和4年度
	回答人数	回答人数
一人暮らし	124	54
夫婦のみ	127	41
夫婦と子ども	371	128
ひとり親と子ども	69	27
三世代	67	22
その他	68	16
回答数合計	826	288



### 問1-4：就業状況

正社員の割合が、令和2年度は70.3%、令和4年度は60.8%と、いずれも最も高くなっている。  
 学生が、令和2年度0.1%より、20ポイント増え、令和4年度は20.1%であった。

勤務形態	令和2年度	令和4年度
	回答人数	回答人数
正社員	581	175
非正規従業員	173	30
自営・フリーランス	22	4
専業主婦・主夫	16	12
学生	1	58
無職	6	1
その他	27	8
回答数合計	826	288

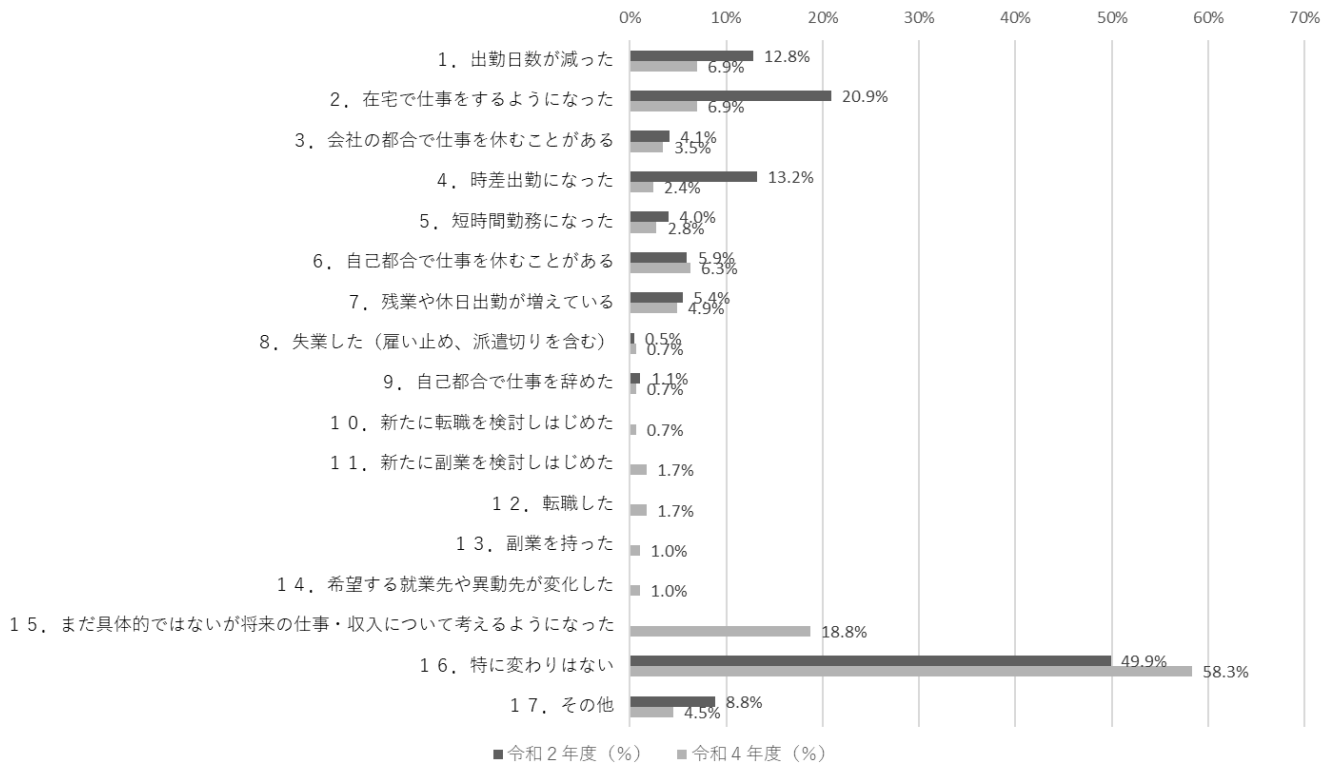


**問2 新型コロナウイルスの影響で、あなたの働き方は変わりましたか。（複数回答）**

令和4年度調査では新たな設問を追加して調査した（10～15）。

「特に変わりはない」が令和2年49.9%、令和4年度58.3%と最も高くなっている。次いで、「在宅で仕事をするようになった」となっている。「自己都合で仕事を休むことがある」が、令和4年度は上位になっている

	回答人数（人）		令和2年度（826人）令和4年度（288人）に占める各回答者の割合（%）	
	令和2年度	令和4年度	令和2年度	令和4年度
1. 出勤日数が減った	106	20	12.8%	6.9%
2. 在宅で仕事をするようになった	173	20	20.9%	6.9%
3. 会社の都合で仕事を休むことがある	34	10	4.1%	3.5%
4. 時差出勤になった	109	7	13.2%	2.4%
5. 短時間勤務になった	33	8	4.0%	2.8%
6. 自己都合で仕事を休むことがある	49	18	5.9%	6.3%
7. 残業や休日出勤が増えている	45	14	5.4%	4.9%
8. 失業した（雇止め、派遣切りを含む）	4	2	0.5%	0.7%
9. 自己都合で仕事を辞めた	9	2	1.1%	0.7%
10. 新たに転職を検討しはじめた	-	2	-	0.7%
11. 新たに副業を検討しはじめた	-	5	-	1.7%
12. 転職した	-	5	-	1.7%
13. 副業を持った	-	3	-	1.0%
14. 希望する就業先や異動先が変化した	-	3	-	1.0%
15. まだ具体的ではないが将来の仕事・収入について考えるようになった	-	54	-	18.8%
16. 特に変わりはない	412	168	49.9%	58.3%
17. その他	73	13	8.8%	4.5%



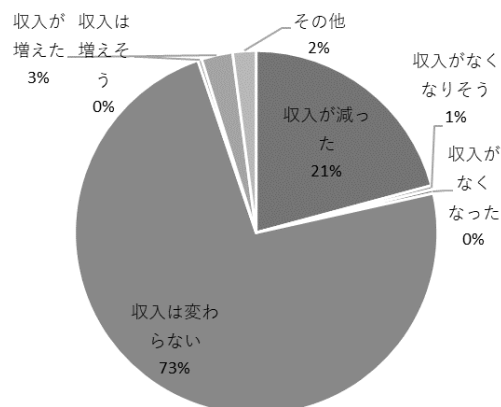
### 問3 新型コロナウイルス感染拡大で、あなたや家庭の収入は変わりましたか。

※令和2年度調査では、「収入の変化」「今後の収入の変化の見込み」を分けていたが、令和4年度調査では統合した。

いずれも「収入は変わらない」が7割を超え、最も高くなっている。「収入が減った」も約2割と変化はなかった。

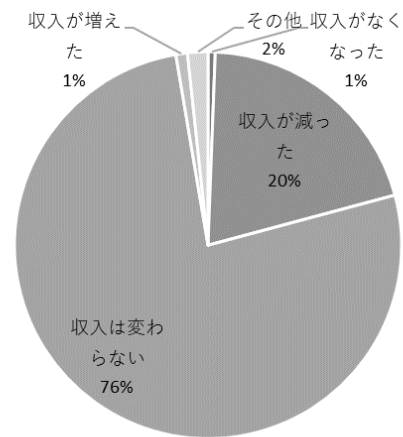
#### 《令和4年度調査》

令和4年度調査（人）	
収入が減った	60
収入がなくなりそう	1
収入がなくなった	1
収入は変わらない	211
収入は増えそう	1
収入が増えた	8
その他	6

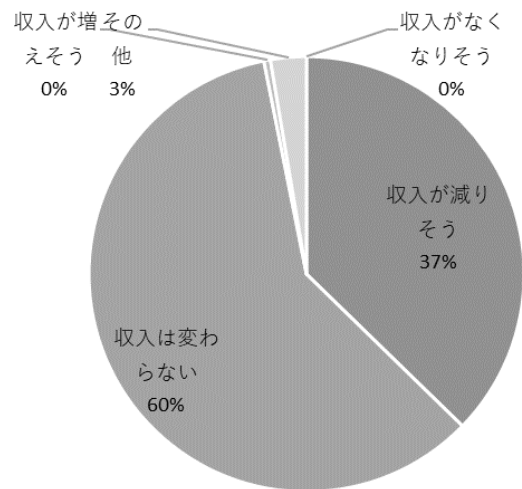


《令和2年度調査》

令和2年度調査（人）	
収入がなくなった	5
収入が減った	167
収入は変わらない	632
収入が増えた	8
その他	14



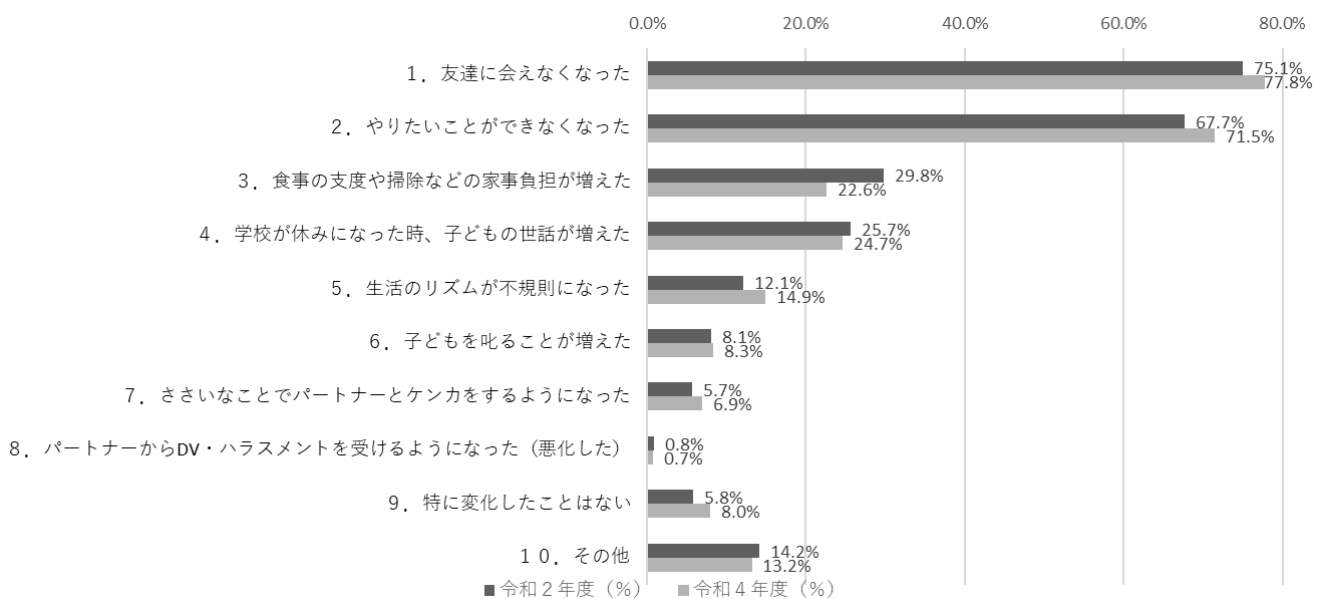
令和2年度調査（人）	
収入がなくなりそう	0
収入が減りそう	308
収入は変わらない	492
収入が増えそう	4
その他	22



**問4 新型コロナウイルス感染拡大の影響であなたの生活や行動に変化がありましたか。（複数回答可）**

いずれも「友達に会えなくなった」が最も高く、次いで「やりたいことができなくなった」となっているが、令和2年度よりそれぞれ2.7ポイント、3.8ポイント増えている。

	回答人数（人）		令和2年度（826人） 令和4年度（288人）に占める各回答者の割合（％）	
	令和2年度	令和4年度	令和2年度	令和4年度
1. 友達に会えなくなった	620	224	75.1%	77.8%
2. やりたいことができなくなった	559	206	67.7%	71.5%
3. 食事の支度や掃除などの家事負担が増えた	246	65	29.8%	22.6%
4. 学校が休みになった時、子どもの世話が増えた	212	71	25.7%	24.7%
5. 生活のリズムが不規則になった	100	43	12.1%	14.9%
6. 子どもを叱ることが増えた	67	24	8.1%	8.3%
7. ささいなことでパートナーとケンカをするようになった	47	20	5.7%	6.9%
8. パートナーからDV・ハラスメントを受けるようになった（悪化した）	7	2	0.8%	0.7%
9. 特に変化したことはない	48	23	5.8%	8.0%
10. その他	117	38	14.2%	13.2%

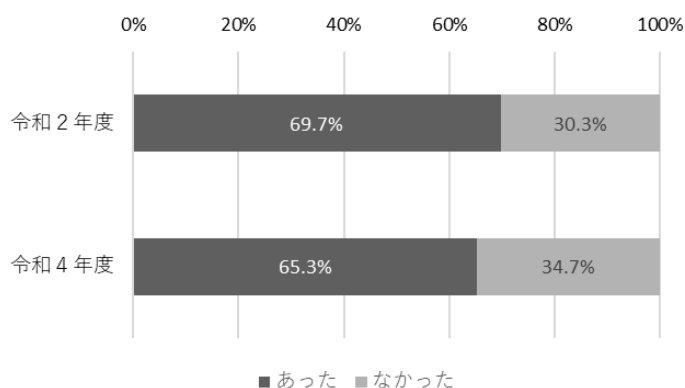




**問5 新型コロナウイルス感染拡大の影響で、あなたの心身に変化がありましたか。**

(人)	令和2年度	令和4年度
あった	576	188
なかった	250	100

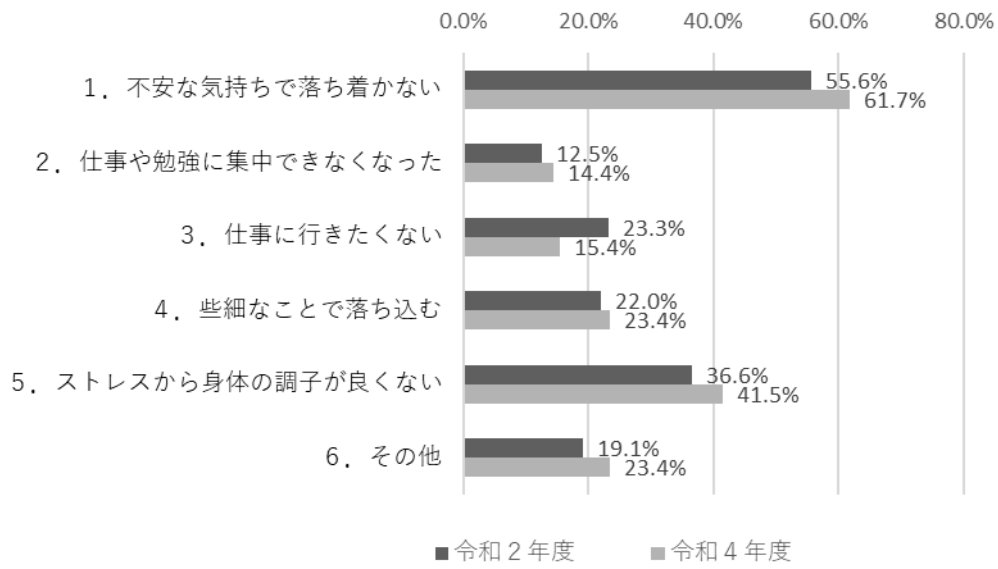
令和2年度と令和4年度での顕著な差は見られなかった。



**問5-2 「あった」方の具体的な変化について**

いずれも「不安な気持ちで落ち着かない」が最も高く、次いで「ストレスから身体の調子が良くない」となっているが、令和2年度よりそれぞれ6.1ポイント、4.9ポイント増えている。

	回答人数 (人)		令和2年度 (576人) 令和4年度 (188人) に占める各回答者の割合 (%)	
	令和2年度	令和4年度	令和2年度	令和4年度
1. 不安な気持ちで落ち着かない	320	116	55.6%	61.7%
2. 仕事や勉強に集中できなくなった	72	27	12.5%	14.4%
3. 仕事に行きたくない	134	29	23.3%	15.4%
4. 些細なことで落ち込む	127	44	22.0%	23.4%
5. ストレスから身体の調子が良くない	211	78	36.6%	41.5%
6. その他	110	44	19.1%	23.4%



**問6 今般のコロナ禍のなかで、ぐんま男女共同参画センターにどのようなサービスを望みますか。**

※令和2年度調査では「特になし」がなかったことから「その他」には「特になし」が含まれる。令和4年度調査では「特になし」の項目を設けた。

※令和2年度調査では「メール等を利用した相談の実施」の項目がなかったが、令和4年度調査では項目を設けた。

※「5 電話相談の継続」について、令和2年度調査では「女性のための電話相談の継続」としていたが、性別を問わずに調査を行うこと、および、令和3年度より男性電話相談が創設されたことから、項目名を変更しているが、同じものとして比較対象とする。

令和4年度は、「特になし」が30.9%と最も高い。次いで「信頼できる相談機関一覧をホームページに掲載」が28.1%、「オンライン（Zoom等）での講座・講演等」が26.7%となっているが、令和2年度よりそれぞれ8.2ポイント、9.9ポイント減っている。

	回答人数（人）		令和2年度（826人）令和4年度（288人）に占める各回答者の割合（%）	
	令和2年度	令和4年度	令和2年度	令和4年度
1. オンライン（Zoom等）での講座・講演等	302	77	36.6%	26.7%
2. 3密を避けた、少人数での講座・イベント	218	45	26.4%	15.6%
3. テーマや対象を絞ったオンラインでの交流会	110	37	13.3%	12.8%
4. 信頼できる相談機関一覧をホームページに掲載	300	81	36.3%	28.1%
5. 電話相談の継続 ※	249	44	30.1%	15.3%
6. メール等を利用した相談の実施※	-	56	-	19.4%
7. 図書の貸出期間の延長・貸出冊数を増やす	111	43	13.4%	14.9%
8. 特になし※	-	89	-	30.9%
9. その他	66	19	8.0%	6.6%

